

第18回大口町地域交通推進会議（大口町地域公共交通会議）議事録

日時 令和元年6月4日

午後2時00分 開会

場所 大口町役場3階第5委員会室

◇出席委員

松尾幸二郎会長 近藤時男委員 伊藤浩委員（職務代理者） 山田吉昭委員 近藤幸男委員
前田一紀委員 大森邦代委員 酒井貞夫委員 馬場輝彦委員 長谷川裕修委員（代理 佐藤氏）
小川賢二委員（代理 平井氏） 渡邊重之委員（代理 安藤氏） 大矢玄康委員（代理 小川氏）
松浦秀則委員 工藤彰郎委員

◇欠席委員

細江努委員 小林裕之委員 大口町副町長（不在）

◇出席職員

地域協働部長 天野浩
町民安全課長 岩崎義宏
町民安全課 課長補佐 稲垣敬
町民安全課 主事補 平子靖子

◇議 事

1 開会

進行 町民安全課 課長補佐 稲垣

2 会長挨拶

松尾幸二郎会長

3 町長挨拶

公務により挨拶後退室

4 協議事項（詳細別紙）

- (1) 大口町コミュニティバス事業報告大口町コミュニティバス 事業報告
- (2) 大口町コミュニティバス 運行の目的および目標について
- (3) 大口町コミュニティバス 1日無料DAY実施結果について
- (4) 大口町コミュニティバス ダイヤ等改正（案）について

5 その他

6 閉会

◇協議事項

(報告事項)

(1) 大口町コミュニティバス事業報告 (平成30年度)

報告者：事務局 町民安全課主事補 平子

【資料1に基づき報告】

■平成30年度大口町コミュニティバス事業報告

1 目的

「コミュニティバス運行サービスの質を低下させることなく運行経費に係る町負担額の低減を図る」

2 前年度 (平成29年度実績)

町負担額とは、運行経費から運賃や運行支援費・広告料、県の補助金などの収入を差し引いたもの。
平成29年度の町負担額は3917万3343円。一般利用者数は12万732人。

3 目標

4 活動計画

「4活動計画」に基づき平成30年度の目標を設定した。
近年の実績を考慮し、昨年度に比べて広告収入および運行支援費の目標値の減を行った。

5 実施状況・結果

(1) 運行支援協定

運行支援費は2社減の6社及び江南市の全7団体から合計309万円の収入

(2) 有料広告の掲載

有料広告はバス停標識が継続30基で合計180万円の収入で、車内広告が運転席後部2枠で4万2500円の収入、車両ラッピングは固定枠、出来高枠、マグネット広告を合わせて96万8000円の収入となった。

(3) 協定企業のニーズの把握と利便性向上の取り組み

協定企業からの要望や利用者の意見を参考に、基幹ルート、北部ルート、中部ルートで時刻等の改正をした。また、新たにリアルタイムによる運行状況の把握の取組として、バスの走行位置をリアルタイムで監視するシステムを運行会社が全車両に導入した。このことにより遅延情報の問い合わせ先として、停留所の時刻表看板へ運行会社の連絡先表示を行った。

6 協働事業

特定非営利活動法人「まちねっと大口」と協働で、平成24年度にコミュニティバスの応援ボランティアを一般から募集し、コミュニティバスサポート隊 (通称バスサポ隊) を結成。
利用者側からの目でコミュニティバスの利便性向上を目指し、乗車人数の更なる増加を目的に活動を続けている。

平成30年度には、実際に運行するバスを利用して町内を巡るバスツアーの企画・実施を行い、ふれあいまつりでのブース出展や無料DAYのPRやアンケートの実施、実際にバスに乗車して発着時刻や業務態度等の調査を行った。また、新たにマイ時刻表の作成の受付を開始し、コミュニティバスの利用促進と利便性向上を行っている。

7 効果の確認

平成30年度の運行経費→6178万1049円

収入計→2054万2600円

差し引いた金額である4123万9449円が平成30年度の町負担金額。

3「目標」とおり、町負担額4142万円台の目標と比較し、約18万円負担額を軽減することができた。

運賃収入	1364万1100円	(目標比101%)
広告収入	281万500円	(目標比108%)
運行支援助入	309万円	(目標比91%)
乗車人数	12万3183人	(目標比94%)

8 反省・今後の進め方

バスサポ隊と連携し、利用者の満足度向上を引き続き図っていく。

無料DAYの実施により、利用促進および利用ニーズの調査・研究を行う。

令和元年度目標	乗車人数	13万人	(平成30年度実績比105.5%)
	町負担額	4306万円台	(平成30年度実績比104.4%)
	収入額	2054万円	(平成30年度実績比99.8%)

<質疑応答>

・【前田委員】平成30年度4月1日改正において、「名鉄自動車専門学校前」停留所を新設し、中部ルートの一部減便（バロー前発着便の減）を実施した。結果として「名鉄自動車専門学校前」の利用はほとんどなかった。バスサポート隊の会議でも、やってみて失敗する可能性があるから手を出せないことが多い。しかし、今回のようにやってみてわかることもあるが、挑戦すべきなのか。

→【小川委員（代理 平井氏）】事前のアンケート等である程度予測をすることができ、どれだけアピールすることができるかどうかではないか。また、アンケート結果を100%信用するのではなく、参考にしつつやってみる、利用が見込まれないのであればやらない手もある。事前のアンケートや調査が必要である。

→【松尾会長】「名鉄自動車専門学校前」の利用がほとんどなかったことを受け、平成31年1月20日にダイヤ等改正を行ったことはよかった。

・【松尾会長】運行支援協定の解約について、運行開始当初から協定を結んでいる企業かと思われるが、

新しい企業へのアプローチはしているのか。

→【稲垣課長補佐】本町では企業誘致を積極的に進めており、企業支援課の方で各企業からアプローチがあった際には、コミュニティバスの本制度について話をする連携はとれている。

→【松尾会長】企業と連携する手法は珍しく、このことによってある程度収支率を保たれており、地域の特徴を活かし、これからもう少しアピールしていくとよい。

・【山田委員】企業誘致の際にアプローチをする中で、立地場所やルートの動線上にあるかないか等の問題が出てくると思われ、やみくもにアプローチしても設定が難しいのではないかと推察する。このことも含めて、何かアプローチをしているのか。

→【岩崎課長】バスに乗り切れない等の現象が起きる可能性も考えられる。そのこともふまえて、利用者数やバス停を設置することによりどこかを減便する可能性等総合的に鑑み、またこのことによる増車についても、今後検討する必要があると考える。

また、有料広告による収入についても、今後増やしていきたいと考える。

→【山田委員】車両のラッピング広告のみならず車内広告など安価で掲載できる広告掲載枠について、大口町工業クラブはじめ企業にもう少しアプローチを強めることによって、広告収入はまだ潜在化しているのではないかと。現状維持で継続している流れがあるように思う。

また、従業員が多い企業は、駐車場スペースが満杯状態にあり、マイカー通勤から公共交通を利用した通勤形態へシフトできないか、その1つの案としてコミュニティバスをうまく利用できないかと以前から企業間で話をしたことがある。限られた企業と運行協定を締結して実施しているが、複数の企業でまとまって利用できるよう通勤時間帯である朝夕に運行してもらえると、運行収入に寄与でき、企業としてもありがたいと思う。

→【松尾会長】非常に参考となる意見だと思う。企業誘致等関係部署だけでなく、単にコミュニティバスがある

・【松浦委員】バスロケーションシステムの導入が業界内で進んでおり、北名古屋市、豊山町、小牧市のコミュニティバスに導入している。費用も安価になってきており、性能もよくなってきている。運行管理の面、利用者の利便性向上となる。長期的にはそのような取組もお願いできればと考えている。

→【岩崎課長】今後、コミュニティバスの車両更新の予定もあるため、それにあわせて安価に導入できればと思うが、費用対効果なども考えながら検討していく。

→【松尾会長】バスが行ってしまったのか来ていないのか不安になり利用できない方もいるかと思う。バスロケーションシステムがあることによってバスの位置がわかるというのは非常に重要なことだと考える。また、バスロケーションシステムを導入すると、時刻等の運行データを蓄積することができ、具体的な遅延のデータ等分析に使うこともできる。ぜひ検討していただきたい。

(2) 大口町コミュニティバス 運行の目的および目標について

報告者：事務局 町民安全課課長補佐 稲垣

【資料2に基づき報告】

1 大口町コミュニティバス 運行の目的について

前回の会議で指摘があったように、現在の運行の目的は端的な目的になっており、事業全体の目的というものが記載されていないため、今一度本事業の目的を再考し、案という形で提示させていただく。

2 運行の目的および目標（案）について

資料2のとおり目的と目標という形で提案する。次回会議までにご意見等をお伺いし、次回会議で承認を得たうえで、令和2年度以降の運行の目的および目標として設定したいと考える。

<質疑応答>

・【松尾会長】今回の会議で決めるのではなく、次回の会議までに意見をもらい、最終案を提示して決めたいと考える。この会議として、大口町コミュニティバスとしての目的および目標であるので、委員全体で考えていきたいと思う。

(3) 大口町コミュニティバス 無料 DAY 実施結果について

報告者：事務局 町民安全課主事補 平子

【資料3、別紙①、別紙②に基づき報告】

平成30年度は11月4日（日）に実施し、265人の利用（前年同時期 149人）があった。
令和元年度は11月3日（日）に実施予定。

<質疑応答>

・【長谷川委員（代理 佐藤氏）】資料3の2ページのアンケート結果を見ると、初めての利用が2割程度あり一定の効果が見受けられる中で、7割程度の方が日常的に利用しており、買い物の利用が4割である。商業施設にコミュニティバスの周知を行うことで、利用促進に効果があるのではないかと思う。日常的に利用者の意見として、自由意見欄に運行本数増加の要望が複数ある。利用ニーズとして検討項目となる中で、どの時間帯でどのルートにニーズがあるのか具体的に分析できるとより一層利便性向上が図れると思う。

また、案のひとつとして、今回の無料 DAY でコミュニティバスに乗った方を対象にアンケートに答え

ると無料券の配布を行ったが、役場のロビー等で先着何名、期間を設けたうえで、利用ニーズを調査するアンケートを行い、無料券の配布をすると地域のニーズがわかるのではないかと。

→【松尾会長】アンケートの方法についても、まだ工夫をしていけると思う。自由意見欄は気づけないことを知るチャンスでもあり、非常に重要な機会である。

(承認事項)

(4) 大口町コミュニティバス ルート等改正(案)について

報告者：事務局 町民安全課 平子主事補

【資料4、別紙③に基づき説明】

■改正案

- ①ルート変更
- ②バス停の移設

■変更時期

- ①工事の実施日より改定
- ②令和元年5月20日より変更。

①ルートの変更

中部ルートの一部変更

【変更理由】

橋の架け替え工事に伴い、長期間通行ができなくなり、バスの運行ルートに支障がでるため、ルートの変更を行う。

②バス停の移設

中部ルート「二ツ屋」停留所の移設案

【移設理由】

二ツ屋学習等共同利用施設内に設置していたが、バスの停車位置がカーブおよび交差点付近となることから、乗降する利用者だけでなく、他の通行車両への影響が懸念されるため。

【利用者への事前説明】

停留所への案内文の掲示や、移設予定場所へ臨時バス停を設置し周知を行った。

<質疑応答>

- ・【小川委員(代理 平井氏)】工事が終了したら、ルートは元に戻すのか。

→【平子主事補】元に戻す予定。

→【小川委員（代理 平井氏）】その際は、また協議を行うのか。

→【平子主事補】はい。

・【松尾会長】元に戻さない方がよいということもありうるのか。

→【平子主事補】公安との協議の中で、変更後のルートが車幅が少し狭く、また通学路になっていることから、工事が終了した際には、元のルートに戻す方向でいる。

・【馬場委員】ルートの変更前、変更後ともにバス停の発着時刻および順番は変わらないのであれば、工事の実施日より改定するのではなく、事前周知の面からも、実施日を待つよりもいつからというものを決めてしまった方がいいのではないかと。

→【岩崎課長】通学路になっていることもあり、できるだけ変更後のルートを走行する期間は短くしたいという思いがある。

→【松尾会長】バスの利用者だけでなく、地域の方にも事前周知をしっかりとしてほしいという意見かと思うので、早めに周知を行ってほしい。

→【平子主事補】そのようにします。

・【松尾会長】工事の時期はまだ変動するのか。

→【平子主事補】9月から10月中旬に工事が始まる予定である。

・【松尾会長】「二ツ屋」停留所の移設について、待機場所がないように思う。もう少し東側に待機場所のある遊歩道があるように思うが、こちらに移設はできないのか。

→【岩崎課長】名古屋市の水道局の管轄する土地になり、今回、名古屋市まで調整は行っていない。今後、調整をする中で許可がもらえるのであれば考えていきたい。

→【松尾会長】停留所の設置場所として望ましく、調整してもらいたい。

全会一致で案のとおり承認

5 その他

・【渡邊委員（代理 安藤氏）】愛知県では車と公共交通等を賢く使い分けるライフスタイル、エコモビリティライフ（エコモビ）を県民運動として推進している。エコモビの推進をはかるため、取り組みに対して、年に1回表彰式を平成24年度から行っている。エコモビに対する積極的な参加をお願いするとともに、関係団体や自治体でこういった取り組みをしている場合は、ぜひ案内をしてもらいたい。

・【小川委員（代理 平井氏）】公共交通会議において何を話したらよいかわからないといった意見があったため、中部運輸局で平成28年にパンフレットを作成したので、参考としていただきたい。また、わからないことがあれば、質問も含めて発言をしていただき、積極的な意見交換ができればと思う。

・【前田委員】アンケートの話があり、バスサポート隊でアンケートは様々な形で行ってきたが、その印象として、アンケートの取り方や回答者によって結果が変動し、その危険性も感じている。信頼性の高いアンケートについて、何かヒントをいただければと思う。

また、よく聞く意見として、運行本数が少ないから使わないというものである。しかし、コミュニティバスしか移動手段のない方は、バスの時間にライフスタイルを合わせているため、便利や助かっているといった回答が返ってくるが、バスがなくても不便でない方（マイカー利用者）はバスが不便なので使わないという回答である。利用者の増加のためには、マイカー依存からコミュニティバスに対する考え方の切り替えができれば1番よいのではないか。そのために何かよい考えはないか。

→【松尾会長】アンケートの取り方について、目的によって変わってくる。施策のベースとして行うのであれば、統計的にサンプリングを行う必要がある。一例として、各小学校区程度で分けて無作為抽出を行うやり方があるが、費用がかかるものにはなる。また、利用者の利便性向上であるならば、実際にバスに乗車して乗降調査を行うことも1つの手であるが、平日や時間帯によっても結果は変動する。目的とコストの制約のバランスを取りながら、状況に合わせて行うのがよいのではないか。

→【小川委員（代理 平井氏）】乗っていない方が「本数を増やしたら乗ります」というのは、ほとんど乗らない傾向があり、これならよいという方法はない。何をしたいのかということを考えて行っていく必要がある。現在バスを使っている方に対しては、具体的なバスの使い方を提示して、使っている方が近所の人にこういう使い方があると伝えてもらうことで広がる例もある。アピールの仕方を行政だけでなく地域の方で今後行っていく方法もあるのではないか。